



「炎症性腸疾患が増えています」

今回は、あらゆる年齢層で最近増えているという炎症性腸疾患（IBD）について佐藤先生にお聞きしました。

Q 炎症性腸疾患とはどんな病気ですか。

A 主に潰瘍（かいよう）性大腸炎とクロン病をいいます。下痢、腹

痛、下血、発熱、体重減少などの症状があります。動習慣の減少などが挙げられます。

Q 予防法は？

A 野菜をしっかりと食べる、お菓子を食べ過ぎない、規則正しい食事習慣を心掛け、適度な運動をすることです。

Q 診断方法は？

A 下痢・腹痛などの症状を詳しく聞きます。期間が長い、繰り返しかかる、腸に穴が開く、長い間に腸にがんができる

ことがあるなどの理由から、国の指定した難病になつていきます。

Q 原因は何ですか。

A 詳しい原因は分か

っていません。食事の欧米化による腸内状態変

化、腸内細菌の異常、運動

などが分かることがありま

す。おなかの上からみる

検査なので人に優しいの

ですが、ある程度経験が

なければできません。気

になる症状があればため

らわずに専門医を受診し

ましょう。



お答え／佐藤胃腸科医院
佐藤 理 院長

■プロフィール

日本消化器病学会専門医。広島大学医学系大学院卒業後、国立呉病院等に勤務。その後、県立広島病院内視鏡科に10年間勤務。平成19年に佐藤胃腸科医院開院<メモ> ☎ 084(926)0221(西町1-4-1)